

# 日本記者クラブ会報

公益社団法人 日本記者クラブ 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル TEL.03-3503-2722 <https://www.jnpc.or.jp/>



## 戦火

イスラエルの空爆により破壊されたパレスチナ自治区ガザの住宅で生存者を捜す人  
= 10月25日、EPA時事

### ビルに入る二人の暗い顔 開かねばならない記者会見

ひと言でいうと、暗い顔だった。でも、ひと言では言い表せないたくさんの思いや感情を含んでいたはずだ。苦惱、怒り、切迫感、そして疲労もあったろう。10月12日に駐日イスラエル大使のギラッド・コーヘンさん、16日に駐日パレスチナ大使のワリード・シナムさんが、日本プレスセンタービルの入り口で車を降りて、見せた。

こちらはいつもならつとめてにこやかに「ようこそ、日本記者クラブへ」と声をかけるところだが、そういう状況にはない。「とても大変な時期に……」と言を濁したのに対し、二人の大使とも「機会を与えてもらい、感謝します」と言った。そう、暗い顔には、使命感も含まれていた。同じような顔を見たことがあった。ロシアの侵攻を受け、駐日ウクライナ大使のセルギー・コルスンスキーさんを迎えた時だ。ただ、この時は怒りの一筆書きに近い、暗い顔ではなかったかと記憶している。

イスラエル大使が到着した時、ビルの入り口と大使の動線は警察官が固めていた。パレスチナ大使の時も誰もいなかった。イスラム組織ハマス対イスラエルという今回の衝突の構図を考えれば、疑問のわくこともないのだが、そもそもかの地でのイスラエルとパレスチナの圧倒的に不均衡な向き合い方を、この一事が語っているようにも感じてしまう。

このような記者会見はないに越したことはない。ただ、いったんことが起きれば、開かなければならない記者会見でもある。

(専務理事 江木慎吾)

# ナゴルノ・カラバフ、中東 紛争に縁どられた10月

10月の記者会見は、国際紛争の影響を色濃く受けた。この月に訪日する予定だったアゼルバイジャン外相のジェイフン・バイラモフさんの記者会見を計画していた。駐日アゼルバイジャン大使館の申し入れを受け、同国が対テロ作戦と称し、9月に隣国アルメニアとの係争地ナゴルノ・カラバフに攻め入り、制圧した。この影響もあってか、外相の訪日自体がなくなり、記者会見は中止となった。

2日、国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)事務局長のフリップ・ラザリーニさんから、10月の記者会見は始まった。「中東における平和への展望が今日ほど遠のいてしまったことはなく、絶望感が広がっている」とラザリーニさんは話した。パレスチナのガザ地区を実効支配するイスラム勢力ハマスがイスラエルに対して攻撃を仕掛け、双方の間で戦闘状態になったのはその5日後だった。

この事態を受け、中東の専門家の出川展恒企画委員(NHK)がイス

ラエル、パレスチナの両駐日大使と交渉、記者会見を実現してくれた。

イスラエル大使のギラッド・コーヘンさんは、ゲストのサインブックにハマスの攻撃について触れた上で「私たちは戦争に向かう」と書き記した。パレスチナ大使のワリード・シラムさんは、パレスチナの独立宣言を起草した詩人マフムード・ダーウィッシュの詩を引用した上で、「戦争は破壊しかもたらさない」と書いた。二人の言葉は、記者会見で紹介されることはなかった。

この二人の会見後、さらに「ハマス・イスラエル衝突」として、慶應義塾大学教授の錦田愛子さん、東京大学特任准教授の鈴木啓之さんを引き、衝突の背景と今後の影響について考えた。この司会も出川委員が担当した。

20日には、国連難民高等弁務官のフリップ・グラウンディさんの会見があった。ほぼ毎年、来日し、日本記者クラブでの記者会見も8回目になる。最初に会見したのは、UNRWAの事務局長として、だった。そ

うした背景もあり、会見の前から中東情勢についての質問が出ることを意識していた。「国連難民高等弁務官事務所は、パレスチナ、イスラエルにおける役割、負託を有してはいない」と断った上で、さらなる軍事展開があった場合、またその時点の状態が永らえた場合も、ガザの人々にとつて壊滅的な結果をもたらさずだろうと話した。

## 戦争和解の活動の会見でも

同じ20日に第2次世界大戦で戦った日英の和解活動を進める英国の「ビルマ作戦協会」のマクドナルド昭子会長と、インパール作戦で日本軍と戦った元英国軍兵士のリチャード・デイさん(97)たち4人が会見した。出席した元英国陸軍大佐で英国法定弁護士のジェームス・ボーグルさんは、広島、長崎に原爆が投下されたことについて質問され「軍の士官としての意見だが、民間人、女性、子ども、高齢者は絶対に標的にしてはならない。このことから、民間人に対し、広島、長崎に原爆を投下したことは道徳的に間違っていたと思う。同じ理由から、民間人、非戦闘員、子どもを中東で爆撃することも道徳的に間違っていると思う」と語った。

(江木)

## 目次

▼今月のクラブゲスト	3
▼会見リポート	4
野田秀樹 劇作家、演出家、役者／新浪剛史 経済同友会代表幹事／フリップ・ラザリーニ 国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)事務局長／酒井邦嘉 東京大学大学院教授／ギラッド・コーヘン 駐日イスラエル大使／松丸喜一郎 日本ライフル射撃協会会長／ワリード・シラム 駐日パレスチナ大使／錦田愛子 慶應義塾大学教授、鈴木啓之 東京大学特任准教授／岸本聡子 杉並区長／ビルマ作戦協会会長、元英国軍兵士ら／フリップ・グラウンディ 国連難民高等弁務官	9
▼記者ゼミ	9
▼ワーキングプレス	10
副大臣・政務官54人 女性ゼロ フジテレビ 高田圭太 水俣病訴訟で原告全員勝訴 熊本日日新聞社 東誉晃	11
▼新・列島報告 神奈川県 真鶴町長リコール成立 毎日新聞社 本橋由紀	12
▼被災・防災・減災 最前線 モロッコ地震 異国の被災 言葉の壁 北國新聞社 古府拓也	13
▼書いた話書がなかった話 ポーズをとったタリバン 真田正明	14
▼リレーエッセー 唐池恒二さん J.R九州相談役 西日本新聞社 吉田修平	16
▼マイBOOKマイPR	17
▼写真回廊	20

## 今月のゲストの皆さん

ゲスト全員の会見レポートは右のQRコードを開きウェブサイトで見られます。出席欄の「会」は会場、「オ」はオンラインの参加人数です。



\*下記のゲストの会見レポートは4～9ページに掲載しています

**野田 秀樹**さん 劇作家、演出家、役者

■ 9・27 / 出席：会58人、オ30人 / 司会：中村正子委員

**新浪 剛史**さん 経済同友会代表幹事

■ 9・29 / 出席：会45人、オ53人 / 司会：藤井彰夫企画委員長

**Philippe Lazzarini**さん

国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) 事務局長

■ 10・2 / 出席：会19人、オ18人 / 司会：出川展恒委員 / 通訳：池田薫さん

**酒井 邦嘉**さん 東京大学大学院教授

■ 10・11 / 出席：会25人、オ60人 / 「生成AI」② / 司会：倉澤治雄委員

**Gilad Cohen**さん 駐日イスラエル大使

■ 10・12 / 出席：会41人、オ43人 / 司会：出川展恒委員 / 通訳：森岡幹子さん

**松丸 喜一郎**さん 日本ライフル射撃協会会長

**松本 順一**さん 日本eshooting協会理事

**福島 太一**さん 日本eshooting協会理事

■ 10・13 / 出席：会12人、オ16人 / 「eスポーツ」① / 司会：森田景史委員

**Waleed Siam**さん 駐日パレスチナ常駐総代表部代表 (大使)

■ 10・16 / 出席：会36人、オ56人 / 司会：出川展恒委員 / 通訳：池田薫さん

**錦田 愛子**さん 慶應義塾大学教授

**鈴木 啓之**さん 東京大学特任准教授

■ 10・18 / 出席：会36人、オ65人 / 「ハマス・イスラエル衝突」 / 司会：出川展恒委員

**岸本 聡子**さん 東京都杉並区長

■ 10・18 / 出席：会33人、オ39人 / 司会：佐藤千矢子委員

**Richard Day**さん 元英国軍兵士

**Akiko Macdonald**さん ビルマ作戦協会会長

**Paul Corden**さん 英国陸軍中佐

**James Bogle**さん 元英国陸軍大佐、英国法定弁護士

■ 10・20 / 出席：会23人、オ22人 / 司会：乾正人委員 / 通訳：池田薫さん

**Filippo Grandi**さん 国連難民高等弁務官

■ 10・20 / 出席：会29人、オ36人 / 司会：出川展恒委員 / 通訳：賀来華子 (UNHCR)

**中村 和子**さん 男女共同参画アドバイザー (右)

**橋本 真由美**さん 兵庫県加西市議会議員 (左)



リーダー養成塾を開催、地方議会の女性議員増を目指す。「無意識のうちにとらわれている固定的な性別役割分担から解放されることが大切」議員になるのは別次元の大変さ。パートナーの反対などハードルが高いが、女性の立候補によって議会の空気、政策も変わる

■ 9・29 / 出席：会13人、オ25人 / 「地方自治のいま」③ / 司会：澤田信孝委員

**内藤 正典**さん 同志社大学大学院教授



「ガザでの軍事衝突ではトルコの世論はパレスチナ側。エルドアン大統領はイスラエルがハマスを締め上げすぎたせいだと発言。パレスチナ側に立ち仲介しようとしている。保証国となり停戦を監視する役割を担う構えだが、交渉相手の姿勢が定まらないと前進はない」

■ 10・27 / 出席：会9人、オ26人 / 「トルコ 建国100年の自画像」 / 司会：出川展恒委員



「コロナ禍を経てその思いを強めた。芸術や文化がいかに社会に認知されていないかを感じた。スポーツではワールドカップで

## 野田 秀樹

劇作家・演出家・役者

9月27日

### 最後の夢は「国際芸術祭」

劇作家、演出家、俳優の野田秀樹さんは演劇界のトップランナーだ。主宰するNODA・MAPの舞台は切符のとりにくさで知られ、英国でも高く評価される。2009年から東京芸術劇場の芸術監督もつとめ、コロナ禍で劇場閉鎖が相次いだ際、横断的組織「緊急事態舞台芸術ネットワーク」をつくるオピニオンリーダーともなった。

今回注目されたのは、そんな野田さんが最後の夢の一つとして新たな「国際芸術祭」を提唱したことだ。かねて東京という都市の規模にふさわしい大きさと芸術的クオリティをもち、世界的に注目される芸術祭が必要だと考えていたが、コロナ禍

皆が盛り上がる。そういう素晴らしい形が芸術のなかにもあれば、不要不急と言われなくなるのでは」会場からは構想の進展状況や内容

について質問が相次いだ。現状は「夢がちよっと進んだくらい」と明かした。具体的内容には踏みこまなかったが「民間にまず呼びかけた」といい「東京に小さな拠点がい

演劇人は、2020年の政府の自粛要請を日付にちなみ「2・26事件」と呼ぶ。野田さんは劇場閉鎖は「演劇の死」につながるといち早く意見を公表したが、SNS上で身勝手などと批判された。「1ステージでも稼げないとダメージを受ける」演劇の実情への無理解を痛感したが、反論はせず社会的認知を促そうとア

日本経済新聞社編集委員 内田 洋一

## 新浪 剛史

経済同友会 代表幹事

9月29日

### 「共助資本主義」の社会に



4月に第31代経済同友会代表幹事に就任した新浪剛史氏（サントリホールディングス社長）は、「これからの経済財政運営と経済

同友会の役割」をテーマに会見に臨んだ。冒頭「今はデフレからインフレへの大きな転換点にあり、日本社会全般が大きく変わってきている点を話したい」と切り出した。

デフレに陥る前は「欲望、野心、昔型のアニマルスピリットで皆が競争し、こうしたダイナミズムが経済を成長させた」とみる。暗転して「世界に例を見ない長いデフレ傾向により、日本は失われた30年の泥沼を経験した。そこから抜け出す「最大の構造改革はPPP」と期待したものの、米国が加わらなかつた。「アベノミクスは正しかった」と評価するが、「金融緩和と財政支出だけでは成長力を取り戻せない」と

指摘。課題は「今のインフレを実質賃金と可処分所得の上昇を伴うまっとうなインフレ経済にできるかどうかだ」と言う。不十分なながらも質上げができる最近の状況を「千載一遇のチャンス」ととらえる。

これを生かすために「企業が過去の常識や同質性を改めて、新たな価値観を生むダイナミズムをいかにつくりだすかが重要」と説く。

最後に経済同友会が提唱する「共助資本主義」を語った。理想は「政府に頼らず、民間、企業が一緒になって、個人が主役になって互いに助け合う社会」だそう。そのために社会課題に柔軟に取り組めるNPOを重視する。「企業が自社のパーパスに合ったNPOを応援して新しいコミュニティをつくり、みんなが生き生きと挑戦できる社会を、経済同友会は目指す」と述べた。

「昔の資本主義のアニマルスピリットでガンガンやったら、日本はまた格差が広がる」とも言うが、これからはアニマルスピリットそのものは必要ではないのか。

ジャーニーズ事務所についての質問には「私たち企業は、人権侵害、児童虐待などをした企業とはお付き合いできない」と答えた。

日本経済新聞出身 森 一夫

「見捨てられた」広がる絶望

ファイリツプ・ラザリーニ

国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)事務局長

10月2日



長年の支援に謝意を示すとともに「平和からこれほど遠のいたことはない」と現状への危機感を示し、パレスチナ問題の政治的解決に向けて国際社会が動くよう求めた。

UNRWAはヨルダン、シリア、レバノン、ヨルダン川西岸、ガザ地区の難民キャンプを中心に暮らすパレスチナ難民とその子孫を支援する国連機関だ。支援内容は医療や食料、教育などの提供から難民キャンプのインフラ改善など多岐にわたる。ラザリーニ氏は「政府のような運営を求められる一方、財政面はドナー国の善意で成り立っている」と強調。1949年のUNRWA設立から間

日本が国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)に支援を始めて今年で70年になる。来日したラザリーニ事務局長は、日本の

もなく75年を迎えるが「パレスチナ問題がこの間ずっと解決していないことを意味する」と述べた。

ロシアによるウクライナ侵攻もUNRWAの活動に影を落とす。食料やエネルギー価格が高騰し、支援の質を落とさざるを得ないという。ラザリーニ氏は、パレスチナ難民への関心が薄まり、各国の支援が届きにくくなっているとも指摘。米国ではトランプ前政権で支援が一時打ち切られており、各国の内政に左右される状況を憂慮した。難民は「世界に見捨てられた」と絶望感を訴えているとし、継続的な支援を訴えた。

このほかラザリーニ氏は会見で、日本にUNRWAの関連拠点を設立する意向も表明。実現すればアジア初となり「民間との協力にも期待したい」と意欲を語った。

会見から1週間たたないうちに、ガザを実効支配するハマスとイスラエル軍の大規模戦闘が起こった。情勢は混乱し、戦闘の長期化も予想される。イスラエル軍はガザを封鎖し、深刻化するガザの人道危機は連日トップニュースで報道されている。一刻も早い停戦や情勢安定化に向け、メディアができることを考えたい。

共同通信社外信部 菅野 麻衣子

「生成AI」②

酒井 邦嘉

東京大学大学院教授

10月11日

「人間軽視」と警鐘鳴らす

生成AIが人類を豊かにする……。そんな期待を真っ向から否定する論客は、教育を念頭に、その危険性に関する十分な議論が尽くされないまま生成AIが普及するのは「文明衰退の一步だ」と訴えた。

「人間軽視に対する警鐘」を副題に会見に臨んだ言語脳科学者の酒井邦嘉氏は、脳や心がどういう特性を持っているかについて、学問的に十分理解できていない段階で極端な機械化を進めるのは「非常に危険だ」と指摘する。

インターネット検索エンジンの登場で、学生たちが言葉の意味や文脈を考えることなく検索に頼るようになっていくなかで、いい、「自ら考え解釈し、そこから新しいものを作る力が低下している。それに輪をかけて文章力がなくなれば、あらゆる

る教科で学力が落ちることになる」と訴えた。

また、学生の生成AIの利用はオンラインやスポーツのドーピングと同じで、「教育現場で使わせる発想自体がおかしい」と強調。教科書のデジタル化を例に挙げ、「教育に機械を入れることには相当な議論とマインナス効果の検証が必要だ。教員の負担軽減の名の下に、カンニングを推奨することになる」と語った。

「人間が考えなくて済むための生成AIは不要だ」という酒井氏は、教育の基本を「とにかく自分で考えること、相手が考えたものを尊重することに尽きる」とし、技術の発展とは無関係に、「非常にクラシカルな方法だが、テキストに頼らず対話をやる。教育でそれを維持することが重要だ」と提言した。

だが、生成AIの開発・普及に政府は前のめりだ。毒をまきおろすに死を迎えたソクラテスに触れた酒井氏は、会見の最後をこう締めくくった。「我々が機械化によって起きている現象と似ている。末梢から力を奪われ、最終的に人間らしい、言葉を発する能力や考える能力が機械に奪われる。これが文明の衰退だ」

読売新聞社社会部 隅谷 真

## ギラッド・コーヘン

駐日イスラエル大使

10月12日

### 「復讐ではない、圧力だ」



パレスチナ暫定自治区のガザ地区を実効支配するイスラム組織ハマスが、10月7日、イスラエルに対し、大規模なロケット弾による攻撃と、地上からの越境攻撃を行い、ガザ地区周辺の町村を無差別に襲撃した。1400人以上が犠牲になり、220人以上がガザ地区に拉致され人質となった。

イスラエルのネタニヤフ政権は、ハマスに対する「戦争」を宣言し、徹底的な報復攻撃を開始した。発生後まもなく、コーヘン大使からの要請があり、会見が設定された。

大使は、「戦時下のイスラエル」と題した20頁あまりの資料と映像を使いながら、「テロ組織ハマスが、正当な理由なく戦争を始めた。乳幼児、女性、老人を含む、何の罪もない人々を極めて冷酷な方法で虐殺

し、人質にした」と訴えた。さらに、「ハマスはISと同じだ。イスラエルは国民を守る正当な権利があり、国際社会はテロリストを非難すべきだ」と訴えた。夫人の実家も襲撃対象になったと打ち明け、大使が感情を高ぶらせている理由がわかった。

司会者の立場で質問を投げかけた。「大勢の市民が無差別に殺されたイスラエルの怒りと自衛権は理解できるが、どんなやり方でも許されるわけではない。一般市民の命は守られるべきだ。ガザ地区を完全に封鎖し、水も電気も医薬品も一切届かないようにするのは、集団処罰であり、国際人道法に反するのではないか？」大使の答えは、「われわれがやっているのは復讐ではない。ハマスに圧力をかけ、人質を解放させ、二度とテロを行わせないようにするために必要な措置だ。ガザ地区の一般市民は敵ではなく、苦しめるつもりは全くない」とその後も、かみ合わない質疑が、予定時間を40分超えて続いた。

その4日後、ワリード・シナム駐日パレスチナ大使が会見した。熾烈な情報戦が日本でも繰り広げられている。

企画委員 NHK解説主幹

出川 展恒

## 「eスポーツ」①

### 松丸 喜一郎

日本ライフル射撃協会会長

10月13日

### 「消滅」の危機感から参入

コンピュータゲームやビデオゲームの腕前を競うeスポーツは近年、世界中を舞台にした巨大市場を背景に大きな注目を集めている。国際オリンピック委員会が将来的な五輪での採用を見据え、次々に大会を計画。先の杭州アジア大会では初めて正式競技として実施され、会場は連日多くの観客で埋まった。スポーツ離れが進む若者に対する訴求力への期待も高い。

日本ライフル射撃協会の松丸喜一郎会長はその可能性と射撃との「親和性」に目をつけた。射撃は危険なイメージや鉛害による環境破壊の懸念から、競技人口減少に歯止めがかからず、五輪の出場選手枠数が削減されるなど厳しい状況に置かれているという。「消滅」の危機感からeスポーツ参入へと踏み出した。



左から松丸会長、松本順一日本eshooting協会理事、福島太一同理事

「若者の射撃ファミリーを増やすのが最大の目的。競技、生涯スポーツに加えてeシューティングを楽しむ層をつくっていきたい。この三つが交流することで、シューティングファミリーを大きくする」

一昨年に日本協会内に委員会を立ち上げ、ITやゲーム業界の専門家を招いて活動を開始。今年6月にシंगाポールで国際オリンピック委員会（IOC）が初開催した「オリンピック・eスポーツ・シリーズ」に射撃からゲームを送り込むべく、IOCやゲーム会社との折衝を重ねた。その努力が実り、プレイヤー人口推定5億人ともされる「フォートナイト」が実施タイトルの仲間入りを果たした。9月にはeスポーツに事業を特化した日本eshooting協会を新設して動きを加速させる。

会場からはスポーツとの線引きや依存症への懸念について質問が出た。「弊害を排除しながらスポーツ化を図るのが課題。今解は見えない」と率直に答えつつ「実際に多くの若者がeスポーツに親しんでいる。その方々にまずは射撃への興味をもってもらおう」と意義を強調した。今後eスポーツの動向を注視しつつ、戦略を練る構えだ。

共同通信社運動部 村形 勘樹



駐日パレスチナ常駐総代表部代表(大使)  
ワリード・シアム  
10月16日

## ワリード・シアム 「75年間の占領こそ根源」

パレスチナ自治区ガザを実効支配するイスラム組織ハマスのイスラエル攻撃。多くの市民を殺害し、人質に取った10月7日の非道行為は、ネタニヤフ政権の報復攻撃を招き、新たな戦火を中東にもたらした。

緊張のさなかに行われた駐日パレスチナ常駐総代表部のワリード・シアム代表(大使)の記者会見は、根深い対立の根源でありながら、置き去りにされてきたパレスチナ問題に改めて光を当てる機会となった。

質疑を交え、2時間近くに及んだ長時間の会見で、繰り返し口をついて出たのは「歴史は(ハマスがイスラエルへの攻撃を仕掛けた)まさにその日に始まったわけではない」という言葉だ。

シアムさんは問う。「メディアにはハマス非難が渦巻くが、イスラエル建国

からの75年間、土地を占領され、弾圧で命を落とし、家を追われたパレスチナ人のことはみんな忘れてしまったのか」と。

今回、「戦争状態」(ネタニヤフ首相)の引き金を引いたのはハマスだ。過去の歴史を口実にしようと、市民への暴力は正当化できない。その論理を認めれば、ロシアのウクライナ侵略も許されてしまう。

それでもシアムさんの言葉は重い。塙で囲まれ、約220万人がひしめくガザは「天井のない監獄」と呼ばれる。同じくパレスチナ自治区のヨルダン川西岸では、ユダヤ人入植地が拡大の一途をたどる。

ハマスはその不満を背景に台頭した。ユダヤ人社会の右傾化と相まってイスラエルと衝突を繰り返し、「占領」は既成事実化。30年前に結ばれ、イスラエルとパレスチナの共存を目指した和平合意は破綻した。

イスラエルは米国のお墨付きを得て、ガザで地上作戦を拡大する。ハマスを報復するため「220万人全員を罰するなど許されない」とシアムさんは訴える。その言葉は、人道危機を止められない国際社会への告発でもある。

共同通信社編集委員 川北 省吾

## 「ハマス・イスラエル衝突」

鈴木 啓之  
愛子

慶應義塾大学教授  
東京大学  
特任准教授

## 貧困・失業 奇襲の背景に

10月18日



パレスチナ自治区ガザを実効支配するイスラム組織ハマスがイスラエルに奇襲攻撃を行った10月7日から11日目となる

念しているという。「人質の居場所がある程度把握できるまで、軍は侵攻を決断できないのでは」と分析した。ガザ地区では2007年以降、イスラエルが経済封鎖を続けてきた。鈴木氏は地区内の貧困率や失業率が極めて高いことを挙げ、「こうしたハマスを取り巻く環境が攻撃に至った背景の一つ」と説明した。ただでさえ厳しい環境を強いられてきたガザ住民は、7日以降、イスラエル軍の報復攻撃に加え、完全包囲による水や食料などの供給停止という人道危機にもさらされている。

18日、鈴木特任准教授(左)と錦田教授による会見が行われた。イスラエルによる地上侵攻が「いつ始まったもおかしくない」(鈴木氏)状況で、錦田氏が指摘する通り、開始は遅れているとの見方も出ていた。刻一刻と情勢が変わる中、両氏には的確な視点や知見を与えていただいた。

鈴木氏によると、過去の地上侵攻は空爆開始から7〜10日ほどで始まっていた。錦田氏は「人質の存在が侵攻を遅らせている」と指摘。イスラエルにとって多数の民間人を人質にとられたことは前例がない上、二重国籍や外国籍の民間人に危険がおよび、外交問題に発展することを懸

鈴木氏は「地上侵攻が始まっているにもかかわらず、パレスチナ側の死者数は既に、少なくとも1993年のオスロ合意後で最悪だ」と強調。侵攻が開始されれば、さらなる犠牲者と被害が出るとのことだ。さらには、イスラエルによるガザの管理強化は不可避だとして、再占領の可能性も指摘した。

鈴木氏は、オスロ合意後、国際社会が掲げた2国家共存を含む和平交渉の枠組みを再考するべきだという。日本を含め、各国は2国家共存への支持を改めて表明しているが、それだけではもう惨事を止められないのではないかと。

時事通信社外信部 田所 真帆



古い話になるが、1987年の統一地方選挙で市議会議員に立候補した3人の女性を追いかけ、朝の番組で「主婦選挙」というタイトルでリポートをしたことがある。土井たか子氏が社会党の党首になったときで女性の政治進出が注目を集めていた。生活者の視点で基礎自治体の政治に参加することの意義を強く感じ大きな流れができたと思ったが、そう簡単ではなかった。

この4月の統一地方選挙で杉並区議会は女性議員が半数となった。去年、現職の区長を僅差で破り就任した岸本聡子杉並区長の存在が大きいのは言うまでもない。「議会の景色が変わった」と岸本氏は言う。就任して1年3カ月、この短い期間での動きは目をみはるものがある。会見の滑り出しは、選挙公約をどう実現

## 岸本 聡子

東京都杉並区長

無関心層を自治に巻き込む

10月18日

してきたかといういわば通常の会見でやや硬さが残ったが、自らの政治信念を語る段になっての口調には強い思いと自信が感じられた。

印象に残った言葉が「エンパワメントの連鎖」。エンパワメントは開発協力の分野で女性支援やコミュニティ支援でよく使われる言葉だ。国際的な市民活動20年の経験があるだけに実感がこもる。必ずしも女性ということだけでなく、自らの力を発揮できていない全ての人への目配りがある。地域社会の自治に参画する人を増やし、これまで無関心だった人を巻き込む。自治体の持続可能性をそこに見いだしている。

それでも旧態依然の社会はそう簡単には変わらない。議会のやじについて問われると、「私という規格外な人が現れたときの自然な反応」と語り、精神的なエネルギーを奪われることがあってもやるべきことを見据えてやるしかない、と淡々と述べた。国際社会で鍛えられた感覚は、そう簡単にくじけるものではないことを感じさせた。

エンパワメントの連鎖は、都政、国政と続いていくのか。参加型民主主義の真価が問われるのはこれからだ。

企画委員 NHK出身 迫田 朋子



左からコーデンさん、デイさん、マクドナルドさん、ボーグルさん

## ビルマ作戦協会会長、元英国軍兵士ら「日本を憎む気持ちはない」

10月20日

晴れ上がった青空のように進展する日英関係に、一点だけ垂れ込める雲がある。先の大戦で、日本軍の捕虜となった元英軍兵士が、その処遇を恨み、補償と

謝罪を求める問題だ。

「相互理解」の見地から日英和解に取り組む英国の民間団体「ビルマ作戦協会」の企画で退役軍人らと来日したのがインド北部「インパール作戦」のコヒマで日本軍と戦った元英軍兵士のリチャード・デイさん(97)だ。記者会見では、「日本を敵視し、憎む気持ちはなくなった」と繰り返した。

約2週間の滞在では、千鳥ヶ淵戦没者墓苑など合同慰霊祭に参列し、終戦後、駐留した京都府や広島市を訪問した。山形県庄内町では、コヒマで干戈を交えた104歳の元日本軍兵士と面会し、握手を交わした。

友好的な日本人に接し、「戦後、育んで来た(日英の)友好関係をずっと続けていきたい」と強調した。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑には、日英に加えて米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドとオランダの駐日大使や武官が参加し、初の国際合同慰霊祭となった。

「価値観を共有する『ファイブアイズ』諸国とオランダが『日本の仲間』と参加してくれ、感動した(同協会のマクドナルド昭子会長)。

デイさんに行行したポール・コーデン英陸軍中佐は解説した。「日英が中心に西側同志国の連帯を示し、中露朝の新たな脅威に対抗したい」

中国、ロシア、北朝鮮と三方面を核保有国に囲まれた日本は、戦後最悪の安保環境にある。和解でも「ファイブアイズ」などの同志国と多国間連携していることを発信した。

広島と長崎を訪れたジェームズ・ボーグル元英陸軍大佐で英法定弁護士は、「民間人を狙った原爆投下は行すべきでなかった」と述べた。

原爆投下を否定する発言は日本への謝罪に感じた。片方のみならず双方が謝罪して初めて真の和解となる。日英で唯一の暗雲が晴れることを祈りたい。

産経新聞社論説委員 岡部 伸



紛争や迫害で故郷を追われる人が世界各地で絶たない中、パレスチナ自治区ガザ地区を支配するイスラム組織ハマスとイスラエルの戦闘が10月に始まり、人道危機の懸念が深まっている。こうした中で会見に臨んだグランディ国連難民高等弁務官は「軍事活動のエスカレーションは壊滅的な結果をもたらす。速やかな停戦が望まれる」と訴えた。

グランディ氏は2010〜14年、国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)の事務局長を務めた経験がある。戦闘では多くの死者や避難者が出ていたほか、ガザでは封鎖によって食料や燃料などが不足している。「状況は絶望的だ。今後の和平への取り組みが重要で、早期解決

## ファイリツポ・グランディ 危機は増す 財源は増えず

国連難民高等弁務官

10月20日

が待たれる」と語った。

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)によると、現在、紛争や迫害で強制移動を余儀なくされた人は世界で1億1000万人を超え、増加傾向は収まる兆しはない。そうした中、人道支援を担う機関は今、財源不足という課題に直面している。

グランディ氏は、ロシアのウクライナ侵攻やイスラム主義組織タリバンが復権したアフガニスタンでの危機など世界各地で複数の危機や紛争が重なり合うように起きていると指摘。「危機が増す一方、財源は増えていない。世界が分断する中、人道支援の主体は立ちゆかない状態に近づきつつある」と懸念を示した。

こうした中、来日したグランディ氏は上川陽子外相らと面会し支援増額を要請したことを明らかにした。また、日本の難民受け入れ状況についても言及し、戦争から逃れてきた人々を難民条約上の難民に準じて保護する「補完的保護」制度が新たに創設されたことを評価した。

一方で、グランディ氏は「日本が受け入れている難民の数は限られている」とも指摘する。各地で人道上の懸念が増している中、国際社会から一層の取り組みが望まれている。

毎日新聞社外信部 松本 紫帆

## 土曜記者ゼミ

### 1T編⑤

### スクレイピング自動化手法

10・14 講師…三輪誠司 NHK解説委員 / 出席…会場6人、ウエブ15人

### 必要な情報、自動で定期収集

コマンドラインを使ってスクレイピングする手法を学んだ。例として気象庁が発表する防災気象情報を定期的に収集してみた。

1T編では講師が順を追って説明してくれるので、初心者でも気軽にご参加ください。(事務局)

### 調査報道⑤ 実践報告

10・21 講師…①田村華子 NHK前橋放送局記者、②共同通信社「ジェンダー問題取材班記者」 / 出席…会場6人、ウエブ17人

### ①形骸化した計画書の実態暴く

各市町村では森林保護のため「森林整備計画」を策定している。その計画を巡り、群馬県の10市町村では、県の計画と市町村の計画の文言がほぼ同じになっていることを入局3年目の田村記者が明らかにした。

本来ならば、県が同じであっても、市町村によって森林率や気候が違うため、計画内容は違うはず。しかし、当該の市町村では「市民」「町民」「村民」の部分を変えて、あとはほとんど同じ文章になっていた。

自治体にアンケートを行うと、「担

当が一人で林業に割く時間がない」「知識がない者が担当になっている」との声が上がったという。

「市町村の負担が増え、コピペが横行し、実効性のない計画が生まれるループに陥っている。調査報道で国、県、市町村の(政策の)見直しになれば」と語った。

### ②自分の手で報じる

90カ国が参加するミスコンテストの一つ「ミスアース」。その地方予選のパーティーで、出場者の女性たちが男性審査員の酒の相手をさせられたり、腰に手を回されたりするなどセクハラを疑われる行為を受けた。

報じたのは、当時、大学生で、自身も大会の出場者としてその場に入った記者だ。目の前で繰り返されたハラスメント。記者志望だったこともあり、自分の手で報じようと思い、写真や動画、出場者の話のメモなどを残したという。

そして入社1年目、改めて当時の出場者に話を聞き、今年3月の国際女性デーに合わせ報じた。

報道後には「自分は行動できなかったから書いてくれてうれしい」と感謝の声がある一方、「大会を否定されているように感じた」との意見もあり、繊細な記事だったと振り返った。(事務局)



記念撮影に臨む岸田文雄首相（前列左から3人目）と副大臣ら（9月15日/首相官邸/フジテレビ提供）

## 副大臣・政務官54人女性ゼロ 高田 圭太（フジテレビ政治部デスク）

# 「酷評」察知できぬ官邸

## 女性5人入閣の評価霧消

「この時代に女性ゼロ…本当に？」  
それが正直な感想だった。

岸田首相が9月13日に断行した内閣改造・自民党役員人事。刷新により支持率アップに成功すれば早期解散もという見立ての中、麻生副総裁・茂木幹事長という党の骨格は変えず、萩生田政調会長・松野官房長官ら安倍派5人衆のシャッフルも見送りに。各派閥に配慮した入閣待機組

も起用せざるを得ない中で、刷新感を打ち出す手段は限られた。

そこで目玉として浮上したのが女性閣僚の大幅増員、過去最多の5人に並ぶか上回る起用だった。ただ自民党の女性閣僚候補は枯渇気味の感があり、実現は簡単ではないとの見方も強かった。

### 男性だけ時代見まがう光景

そうした中で岸田首相は、高市経済安保相の留任に加え、上川陽子氏を外相に抜擢。当選8回ながら入閣が見送られてきた土屋品子氏、まだ当選3回の加藤鮎子氏、参院議員7年とキャリアの浅い自見英子氏を入閣させ女性閣僚5人にこぎつけた。

この時点で改造人事は世論に概ね好意的に受け止められ、初入閣の加藤・土屋・自見の3氏が世襲議員であることや、小淵優子氏の党選対委員長起用への厳しい声を差し引いても、内閣改造効果はプラスだと私は感じた。それは共同通信が改造直後

に実施した世論調査で岸田内閣支持率が39.8%と、前月から6.2ポイント上昇したことで裏付けられた。

しかしその頃、15日の副大臣・政務官人事に向け、54人の新たな副大臣・政務官の中に女性が1人も起用されないようだとの情報が入ってきた。政府や自民党が女性の積極起用を掲げる中でまさかと正直耳を疑った。仮にその人事案が狙上にあがっても、官邸・党幹部の間で「これはまずい。少しでも女性を入れよう」という修正が土壇場であるのではなにかとの予測が頭をよぎった。

ところがこの人事はそのまま決定され、認証式後の記念撮影では男性だけがずらりと並ぶ光景が広がった。時代を見まがうようなこの絵柄は当然各社のニュースと紙面を飾った。

そして週末に行われた各社世論調査では、共同の調査とはうって変わって、内閣支持率が横ばい、あるいは下落する結果が続出し、女性5人入閣への評価を吹き飛ばす形となった。

一体なぜ副大臣・政務官に1人も女性を起用しなかったのか。与党議員の取材で聞かれたのは「大臣に女性をかき集めたしわ寄せだ」「自民党女性局のバリ研修問題で人が足りなくなつた」といった指摘だった。「人材がいなくてことだ」といった嘆

きも聞かれた。世界経済フォーラムが発表したジェンダーギャップ指数でも日本の政治分野での男女格差の大きさが際立っているが、官房長官がこの人事について問われ「全体が多様性にも配慮し適材適所の人事を行った」と言わざるを得なかったのはあまりにも苦しい釈明だった。

### 政権の危機管理に不安も

こうした中、様々な場で指摘され、私も最も気になったことは「首相周辺がなぜ副大臣・政務官への女性起用ゼロが厳しい批判を受けることに気づかなかつたのか」という点だ。これについては、安倍政権の官邸チームだったら確実に止めていたとの見方や、木原官房副長官交代の影響を指摘する声もあった。

メディアにおいても、原稿や映像を最終決定するにあたって、本当にこれで大丈夫かという危機管理チェックは極めて重要であり、それに失敗し高い代償を払う例も記憶にある。今回の人事は、岸田政権のそうした危機管理面にも不安を抱かせるものになったと言わざるを得ない。

たかだ・けいた▼1997年入社「報道2001」AD 自民党 首相官邸 旧民主党などの担当記者 キヤップ 地方のニュース「イットー」プロデューサーなどを経て 現職

# 水俣病訴訟で原告全員勝訴 東 菅晃 熊本日日新聞社地域報道本部

## 患者線引きに疑問呈す 魚の多食と症状から判断

今も解決しない水俣病問題に一石を投じる判決だ。

未認定患者団体「水俣病不知火患者会」の会員が国と熊本県、原因企業チッソに1人当たり450万円の損害賠償を求めた集団訴訟で、大阪地裁は原告128人全員を「水俣病に罹患している」と認め、国などに1人当たり275万円の賠償を命じた。補償につながる患者認定や未認定患者救済を求める人たちに国などはこれまで、さまざまな条件を突き付けてきた。しかし、判決は「汚染魚を多食し、症状があれば水俣病」と極めて常識的な判断を示した。

原告は、2009年に施行された水俣病特別措置法に基づく未認定患者救済対象とならなかった。救済枠組みが設けた対象地域・年代の線引きから外れていたたり、情報が届かずに救済申請が間に合わなかったりしたためだ。

これらの条件の可否を大阪地裁がどう判断するのか注目される中、判

決は救済対象地域外であっても、不知火海（八代海）で取れた魚を継続的に多食した場合は原因物質メチル水銀の摂取が認められると判断した。

チッソ水俣工場の危険な排水が1968年に止まった後も、汚染魚を水俣湾内に封じ込める仕切り網が設置された74年までに水俣湾やその近くで取れた魚を多食すれば、メチル水銀の摂取が認められると結論付け



水俣病不知火患者会の原告128人全員が勝訴した後、大阪地裁前で垂れ幕を掲げる原告代理人（9月27日/熊本日日新聞社提供）

た。大阪地裁判決は、特措法の枠組みによる未認定患者救済に漏れがあったことを端的に示した。そのことは救済対象の地域・年代を明確に線引きし、その線から少しでも外れた人たちに不利に扱った国や熊本県の姿勢に大きな疑問を投げかけたとも言えよう。

### 被害救済よりも組織防衛

これまでの判決より踏み込んだ点もいくつかあった。別の未認定患者団体の裁判では否定されたが、大阪地裁は「低濃度のメチル水銀を長期にわたり摂取することで発症する可能性は否定できない」と判断。「遅発性水俣病」の存在も認め、メチル水銀の摂取終了から発症までの期間について限定をしなかった。2004年の最高裁判決は潜伏期間を摂取中止から4年以内としていた。

一方、被告は「判決は科学的知見や過去の最高裁判決と異なる」（国と熊本県）などとして控訴した。ただ、大阪地裁は9年にわたって審理を重ね、「主張に根拠がない」（意見書を提出した医師は）水俣病の研究をしたことがない」と被告に厳しい指摘をしている。被告は控訴審で、これらの指摘を覆す主張・立証を迫られ

ることになる。熊本県の蒲島郁夫知事は「水俣病行政の根幹を揺るがす」とも述べた。揺らぐと困る根幹とは、国や熊本県が50年近く守り続ける患者認定制度のことだろう。そうであれば、高齢化した原告の被害救済よりも組織防衛を優先させたとも取れる発言だ。

### 担当記者置き続けて取材

熊本日日新聞は、水俣病を最も大きな取材テーマの一つとして掲げてきた。社会部（現地域報道本部）は何十年も前から、担当記者を置いている。「目の前の出来事が、長い水俣病事件史の中でどんな意味を持つのか」。そのことを心がけて取材するよう、先輩たちから常々言われている。

水俣病不知火患者会は熊本地裁と東京地裁でも集団訴訟を起こしており、原告が1405人と最も多い。熊本訴訟は来年3月に判決を迎える。この国が何を一番に守ろうとするのかなのか、水俣病訴訟の取材を通してしっかり見届けたい。

ひがし・たかあき▼2019年入社  
 運動部 阿蘇総局を経て、22年から現職  
 水俣病のほか戦争関連、災害などを担当

新・列島報告 76 神奈川県  
真鶴町 町長リコール成立

## 混乱と停滞「失われた2年」 3年で3回目の町長選

本橋 由紀  
(毎日新聞社小田原通信部長)

神奈川県真鶴町は人口約7000人の小さな港町である。ここで11月、3年間で3回目となる町長選がある。選挙人名簿を不正に入手し複写、自らの選挙に利用した松本一彦氏(57)が9月の住民投票で町長職を失ったためだ。不正発覚から2年、町政は混乱と停滞に陥った。

松本氏はキャラが立っていた。周囲に「カックン」と呼ばれ、役場職員として務めた。「町を良くしたい」と熱く語り、東京で選挙経験のある隣の元町議を参謀に、2020年9月の選挙で大勝して町長に就いた。その言葉と行動に隔たりがあること

はまだ知られていなかったようだ。町は1956年に2村が合併して生まれ、真鶴地区と岩地区は「仲が悪い」(町民)。代々の町長は役場職員経験者が多く、特に松本氏の先代(現町議)は松本氏を重用、先代は冷や飯を食わせるなど確執が残る。地元民は子どものころから互いをよく知る。移住者は多いが、地元や町政と距離を置く者もいる。

### ■ 役場職員の4分の1が辞職

「問題」は21年秋に明るみに出た。職員だった松本氏が20年2月、前年の県知事選で町が使った選挙人名簿を持ち出し、複写して町長選に利用した。この複写を21年9月の町議選に際し、出馬予定の近しい議員らに配っていた。

だが、松本氏が自らの不正について涙ながらに謝ると、支援者は「大



会合で失職が決まった直後に真鶴町民センターで会見に臨んだ松本一彦町長(9月24日/毎日新聞社提供)

したことはない」と援護し、民主主義の根幹に関わる選挙不正に目をつぶった。12月の町長選に僅差で再選されると、松本氏は「当選」を錦の御旗に、自身の行為を町のコンプライアンスの低さに結びつけた。選挙に勝てば、問題は水に流せると思っただろうか、「公民権停止までやめない」と言うようになった。

これに対し、ベテランや中堅を中心に約100人の役場職員の4分の1が辞職。複数の職員は取材に「自分の起こした問題を職場の体質にされた」などと語ったが、松本氏は「直接、自分のせいとは言われていない」と反論した。入庁5年以内の職員が4割を超え事業はたびたびつまづいた。職員アンケートでは83%が「町が混乱している」と回答。役場外でも松本氏は消防出初め式や祭りなどへの出席を拒まれ、近隣市町村のイベントに首長としてひとり、招かれないこともあった。

一般職員の不正に対しては町の職員綱紀審査委員会が断じるが、退職者や首長は対象外。使用済みの選挙人名簿の利用は、公職選挙法で明確に規定されておらず、松本氏自身が「悪質」性を認めた問題そのものは今のところ、おとがめがなく、町民や職員の不信感を募らせた。

### ■ 取材避け、会見直前中止も

町が設置した第三者委員会は松本氏ら関係者を告発すべきとし、22年12月に町は松本氏を刑事告発した。町民有志は損害賠償を請求。一方、議会の不信任決議は松本氏を批判していた議員の反対で否決。松本氏は取材を避けることが増え、記者会見を土壇場でキャンセルすることもあった。町民のリコール署名が集まると、「真鶴はひとつ」と言う言葉とは裏腹に、自ら名簿を点検し、異議を申し立てた。

失職が決まった直後、「不毛な誹謗中傷は終わりにしたい」と町長選不出馬を明言。失職の原因を「私の行動の全ての結果」としつつ、「私になにもかも悪かったとされた」と自身を正当化する言葉を繰り返した。失われた2年間を経てなお1378人が松本氏の解職に反対した。町の正常化への道は険しそうだが、「縁」頼みの投票を乗り越える芽も見える。町民が自身の選択がもたらしたことから学んだとしたら、そこには意味を見いだせる。

もとはし・ゆき▼1987年入社 社会部などを経て、2011年福島支局長13年地方部長など、21年10月から通信部員として神奈川県西部をカバーし真鶴町を担当



最前線②⑥

モロッコ地震

# 裸足で立ち尽くす人々

## 異国の被災 言葉の壁

古府 拓也

(北國新聞社白山支社員・鶴来支局員)

メラが床に落ちないように押さえるだけで精いっぱいだった。ホテルは鉄筋コンクリート造りと思われが、日本の厳しい耐震基準が適用されているわけもないだろう。建物が耐えられることを祈るばかりだった。幸い大きな余震はなかったが、もし強い揺れが立て続けに襲ってきたら、日本でこの原稿を書くこともできなかったかもしれない。

■深夜2時<sup>キ</sup>歩き倒壊現場へ

揺れが収まり、ホテルの外に出ると、大勢の人が立ち尽くし、涙を流すアジア系外国人の姿があった。ぼうぜんとしていいる人々の足を見ると、サンダルどころか靴下も履いていない。同じホテルに宿泊していた金沢大の青木賢人准教授(地理学)によると、モロッコでは日本のように学校などの避難訓練はないという。地震の時はがれきやガラスで負傷しないために、靴を履いて逃げるようにと教えられてきたが、それが世界の当たり前ではないことを知った。

言葉の壁も大きかった。周囲から聞こえる言語はモロッコで使われているフランス語やアラビア語ばかりで、英語もあやふやな私では近くの人に声を掛けて状況を聞くこともで



地震で表面が崩れた旧市街の城壁(現地時間9月9日午前9時50分ごろ/マラケシュ市内/筆者撮影)

きず、途方に暮れた。頼りになるのは、私たちのホテルに避難してきた日本国内のジオパーク関係者だけだった。

世界遺産に登録されている旧市街の城壁や市場の建物が崩れていると聞き、深夜2時ごろ、ホテルから2<sup>キ</sup>ほど離れた旧市街へ徒歩で向かった。自分の目で見て写真を押さえたという思いがあった。

アクシデントに巻き込まれては身を守る手段はない。目立たないように一眼レフのカメラはあえて持たず、スマートフォンだけを手に現場に向かうと、広場や路上にじゅうたんと敷いて夜を明かす住民の姿があった。

旧市街の城壁は表面がはがれ落ちて、中の木材がむき出しになっ

た。横方向に何十メートルもわたって亀裂が入った場所もあり、赤茶色の美しい壁は見るも無残な状態だった。

■外国人を気遣ってくれた

壁を見上げながら歩いていると、崩れたがれきにつまずいて転倒してしまった。立ち上がると、現地人とみられる男性が心配そうな顔で近寄ってくる。身ぶり手ぶりと拙い英語で「大丈夫だ」と伝えると、男性は笑顔で何かを話して去って行った。掛けられた言葉の内容は分からなかったが、いつまた地震が起こるかもしれないという中で、自分たちのような異国から来た人への気遣いはうれしかった。

今回の地震では大勢の人が亡くなり、けがを負った。思いもしなかった大地震に遭遇し、けがもなく無事に帰ってこられたことは運が良かった。インバウンドが戻ってきた日本にあつて、いざ災害が起きれば外国人の方たちには不安がつきまとうだろう。モロッコで感じた海外で災害に遭う恐ろしさや事前対策の重要性を胸に刻み、今後の被災時の報道に生かしたい。

ふるこ、たくや▼2006年4月入社  
社会部 珠洲支局などを経て 白山支  
社・鶴来支局に勤務

# ポーズをとったタリバーン 戦時下アフガン写真送れず



きなだ まさあき  
真田 正明

1956年大阪市生まれ 80年朝日新聞社入社 警視庁キャタプ プノンペン ジャカルタ各支局長 アジア総局長 論説副主幹 2010年11月から18年3月まで夕刊コラム「素粒子」を担当 21年退社 著書に『朝日新聞記者の200字文章術』『朝日新聞記者の書く力』『最高の一年』

行き当たりばったりで紛争地に入る。みっともない話を、反省を込めて書く。

2001年9月11日の米国同時多発テロ事件のあと、ブッシュ米政権は、タリバーンが支配するアフガニスタンに侵攻した。アルカイダの指導者、オサマ・ビンラディンをかかまっているという理由だ。11月13日、米軍の大規模な支援を受けた北部同盟は首都カブールを陥落させた。敗走したタリバーンは、本拠地の南部を中心にお勢力を保っていた。そんなころの話である。

ジャカルタ支局長だった私が任されたのは、南部カンダハル州に通じるパキスタン西部の要衝クエッタである。ナディールという地元紙の若い記者を通訳に雇っていた。

ある日、ナディールの携帯電話が鳴り、ちよっと困った顔をした。英紙ガーディアンへのベテラン記者ジョ

ナサン・ステイールからだ。以前に使ったことがあるナディールに通訳を頼んできたのだ。私はジョナサンとなるべく一緒に行動することにした。この地域が初めての私には、その方が都合良かった。

## ◆タリバーン総領事からビザ

2、3日後、ジョナサンから電話があった。クエッタのアフガン総領事館が取材ビザを出すという。まだタリバーンの総領事がいたのだった。3人で総領事館に急いだ。鉄製の通用口を叩くと、中から「今日の執務は終わった」と声がする。細目に開いたところを3人で無理やりこじ開け、ビザをもらった。

明るいうちに国境を越えたかった。ホテルに戻り、ナップザックにパソコンや着替えと米ドルを詰め込む。タクシリーのなかから外報部デスクに電話を入れた。「これからアフ

ガニスタンに入る」と事情を説明しているうちに、電波の圏外になった。

黄土色の土漠を抜け、国境のチャマンまで2時間ほどだった。検問所の前で、それまで「一緒に行く」と言っていたナディールが「行かない」と引き返してしまった。「ぼくはハザラだから、いじめられる」と言う。ハザラ人はアフガンで迫害を受けてきた少数民族である。

検問所には係官が一人だけいた。ここで思い出した。パキスタンのビザが翌日までしかない。そうすると知らないふりをして旅券を差し出す。係官は「ビザの日にちがない」と、手で追い払う仕草をした。

他の出国者の手続きが終わるのを待った。スペイン人の記者が「シングルビザだから、だめだと言われた」と、帰っていった。私のはともかくマルチだ。誰もいなくなったところで、もう一度係官の前に行った。意

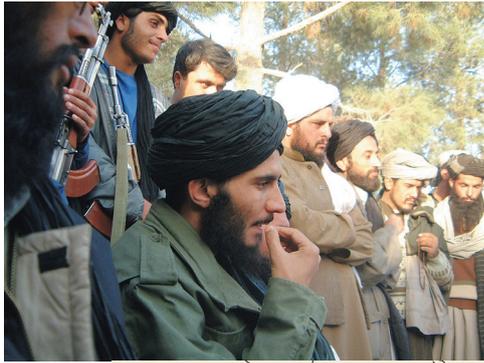
外にも彼は、スタンプを押ししてくれ

た。しかし、通訳がいない。思案していたところに、髭面で小太りの男が現れた。地元紙の記者で、タヤバガと名乗った。「少数民族だから国境は自由に行き来できる」という。1日200ドルくれと言う。クエッタの相場は数十ドルだ。値切ろうとしたが、言い値で雇うしかなかった。

## ◆幼稚園ほどの広さの施設

二人で国境を歩いて渡った。道の両側に露店があり、野菜や果物、ドライフルーツなどが並んでいる。カンダハル州のスピンボルダックだ。

そのとき背中に衝撃を受けた。振り返ると男の子が数人、石を持って「ハザラ」「ハザラ」と叫んでいる。日本人の風貌はハザラ人に似ている。タヤバガが拳骨を見せて追い払った。



▲施設にいたタリバーンの若者たち(筆者撮影)



アフガン側の検問所に行くと、車が待っていた。10数分走って、着いたのは塙に囲まれた施設だった。大きな幼稚園ぐらいの広さ。平屋が2棟と中庭がある。カーペット敷きの部屋に、英国のテレビ局ITVの3、4人と欧米系の記者が2人いた。

#### ◆タリバーンの電話で勦進帳

アフガンに入ったのだから、原稿を送りたい。しかし通信手段がない。隣の部屋で、タリバーンのリーダー格が無線電話を掛けていた。それを見て、「貸してくれ」と頼み込んだ。イスラマバードにいた宇佐波雄策・アジア総局長につながった。国境付近の様子を描写した記事は翌日、朝刊1面の下の方に載った。

部屋ではITVのクルーが、編集

作業をしていた。するとタリバーンの若者が珍しそうに集まってきた。偶像崇拜を否定しているタリバーンはふだんテレビも見ない。英国に密入国しようとするアフガン難民の映像が映った。「これはどこだ」などとやかましい。

彼らにカメラを向けてみた。怒るかと思ったら、ポーズをとる。撮れた写真を見せろ、とせがむ。片言英語同士でいろいろ質問を試みた。パキスタンの神学校に通っている者、カブール大学で工学を学んでいる者。多くは20歳過ぎだ。私が日本人だと言うと、「ヒロシマ、ナガサキ、ウイ・アー・フレンド」と返ってきた。

翌日、ジョナサンをはじめ後続のメディアが入ってきた。私は、彼らに頭を下げて

衛星電話を借りることにした。ただ、時間がかかるので申し訳なく、写真は送らなかった。驚いたのはCNNである。小型トラックに機材を満載して乗り込んできた。

施設の庭の一面を占拠して、カメラやライトを設置し、移動スタジオをつくってしまった。

外国人が珍しいのだろう。近所の男たちが施設の中を覗き込む。そのうち塙の上に座り込み、ぐるりと取り囲むようになった。動物園である。タリバーンは、わたしたちを国境近くの避難民キャンプに連れていった。澄みきった空と砂漠のなかに、見渡す限りのテントが並ぶ。いくつかの家族から空爆の恐ろしさを聞いた。タリバーンの一人が空を指さした。高いところを米軍機が飛んでいるのが見えた。

その日、私はタヤバガに「外で晩飯を食いたい」と頼んだ。タリバーンは、施設を出ることを禁じていた。このあたりの男はみな、大判のシヨールのようなものを身につけている。タヤバガは自分のそれを私に渡し、顔を隠せと言う。日が暮れたころ、こっそり玄関をすり抜けた。

街灯もなく、足元も見えない闇のなかを数分歩くと、アセチレンガスの灯がついた一軒の食堂があった。客はあぐらをかいて座っている。羊肉が入った炊き込みご飯が出てきた。肉は硬いがまずくはない。先客の二人がぼそぼそ話している。タヤバガに聞くと、トラックの運転手らしい。街道を走るトラックは米軍機に狙われるという。特にタ

ンクローリーは危ない。「どこで誰がやられた」などと情報を交換していた。

#### ◆「ビンラディンとは連絡なし」

その翌日、タリバーンの最高指導者ムラ・オマール師の報道官サイド・アガがきた。施設の庭でメディアが取り囲む。「カンダハルなど南部4州の人々はわれわれを支持し、ともに戦うことを約束している。人々の安全と生活を守る義務がある」と、支配地を死守する構えを見せた。

オサマ・ビンラディンについては「友人だが、米国でのテロ事件以来、連絡は途切れている」。オマール師については「健在で、いまでも指揮をとっている」とだけ述べた。

私は翌朝パキスタン側に戻った。ビザの切れた旅券でどうやって再入国したのか、もはや記憶がない。会見は短行のベタ記事になった。難民キャンプのルポには、通信社の写真が添えられていた。施設内の様子を書いた記事は、パキスタンに出国してから写真とともに送った。

偶然が重なってアフガンに入れた。せめて衛星電話があれば、現地から生の写真を送れたのに、と後悔した。今度こんなことがあれば、ちゃんと準備をしようと思うが、そんな機会が二度と訪れることはない。

私が会った  
あの人

## 唐池恒二さん JR九州相談役

## 「ななつ星」世界一の夢紡ぐ

吉田 修平(西日本新聞社)

10月14日午前、JR博多駅(福岡市)の6番ホームは赤いカーペットが敷かれ、華やかな雰囲気包まれていた。

JR九州の豪華寝台列車「ななつ星 in九州」の運行開始10年に合わせた記念出発式。当時の社長を務めていた唐池恒二相談役が主催者代表として「世界一になりた」と思っ(ななつ星を走らせて)きた。今日のお客さまにも「世界一」と言ってもらえるような旅をつくりたい」とあいさつした。

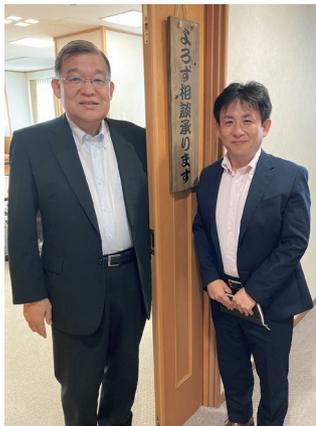
唐池さんと私のお付き合いも10年を超えた。

初対面は、私が経済部の運輸担当記者になった2013年8月だった。恥ずかしながら、他社に抜かれた記事の事実確認のため、ご自宅を訪ねたのが始まりだった。インターホンを押すと、玄関先まで出てきてくれた。初対面にもかかわらず、気さくに応じていた

いた。結局、記事の核心部分については、言葉を濁されたままだったが…。

## 「道楽には付き合えない」

唐池さんは、本流の鉄道事業での勤務経験がほとんどない。国鉄民営化で発足したJR九州が経営多角化を進める中、外食事業や船舶事業などで持ち前の手腕を発揮。斬新な発想で数々の成功を収めた。その裏には「手間をかけ、誠実に向き合った仕事や商品は、お客さまを感動させ



「ななつ星 in九州」を生んだJR九州の唐池恒二相談役(左)。右は筆者(7月/筆者提供)

る(唐池さん)との思いがあったという。

「経営者の役割の一つは、従業員に夢を与えること」という唐池さん。09年の社長就任直後、主だった部長や課長を前に「世界一の豪華寝台列車を走らせたい」と提案した。当初は「採算が取れません。社長の道楽には付き合えません」(現社長の古宮洋二さん)と反対の声もあったそう。

ただ、現在も続く人気ぶりを見れば、ななつ星の成功は明らかだろう。運行開始から10年間で、延べ1万9千人(9月末現在)が乗車し、平均倍率は14・2倍。21年には、米国の有力旅行誌「コンデナスト・トラベラー」の読者投票で、初の列車部門1位に輝いた。悲願の「世界一」について射止めた。これまで3年間、トップの座を明け渡していない。

## 持論「神社参道論」を導入

10年の歳月とともに、唐池さんは社長、会長、相談役を歴任。私の肩書も記者からデスクへと変わった。唐池さんによる本紙の寄稿コラムの担当デスクとなり、私が本社を離れた7月末までやりとりが続いた。月

2回の掲載だが、読者からの反響も少なくなかった。

特に印象深かったのが、唐池さんの持論「神社参道論」だ。「神社の参道は長いほどありがたみが増し、参拝時の感動が大きくなる」という。室町時代に能を大成させた世阿弥が説いた「序破急」の理念に近いものだ。

ななつ星にもこの持論が導入されている。食事用のラウンジカーと最上級の客室を両端の車両にそれぞれ配置。「最上級のお客さまが最も長い距離を歩くけれど、主役は最後に優雅に登場するものだ」(唐池さん)との狙いという。

現在、JR九州本社の相談役室の前に「よろず相談承ります」と記された看板が掲げられ、常に扉が開かれている。唐池さんは経営の第一線から退いているが、この扉から、また私たちを驚かせる新たな発想が生まれ出るのではないかと心待ちにしている。

(よしだ・しゅうへい 2004年入社 経済部 東京報道部などを経て 現在 長崎総局次長)

次号は塩入雄一郎さん(沖縄タイムス社)にバトンが渡ります。

マイBOOK  
マイPR

『核の復権 核共有、核拡散、原発ルネサンス』

会川 晴之（毎日新聞社専門編集委員）

核に揺れる世界を読み解く

「核の復権」と呼べる現象が世界で相次いでいる。

ロシアのプーチン大統領は、核兵器を「脅し道具」に使い、中国は、核ミサイルを収容するサイロを増設するなど核軍拡に走る。台湾有事に備えようと、日本でも核共有を探る動きが出ている。

福島第一原発事故で一時は失速した原子力発電も、地球温暖化対策の「切り札」として脚光を浴び始めた。変化の行き

着く先はどこか。課題を含め、その動きを追った。



『アベノミクスは何を殺したか 日本の知性13人との闘論』

原 真人（朝日新聞社編集委員）

論争的インタビュで徹底検証

財政悪化をもとめせず国の借金を膨らませ、日本銀行の紙幣発行を「打ち出の小槌」のごとく扱う。先進国でタブーとみなされていたこの

危険な経済政策はなぜ10年も続けられることになったのか。「アベノミクス」の好ましからぬ名付け親とみなされ、黒田日銀から最も嫌われた

著者が、金融、財政、行政、歴史、思想などに精通した日本の知性13人へのインタビュを通して、アベノミクスとは何だったのかを徹底検証した。



『日韓の決断』

峯岸 博（日本経済新聞社編集委員兼論説委員）

韓国社会の地殻変動解き明かす

「韓国は本当に信じられるのか」「政権交代すればまたちやぶ台返しをされる」。そんな疑問や疑念に答えようとしたのが本書である。尹錫悦氏は「自民党をぶっ壊す」と叫んだ小泉純一郎氏の手法と、価値観外交を進めた安倍晋三氏の理念を併せ持ったような人物だ。「変人」大統領が対日外交でみせた決断と、その後で起こっている韓国社会の地殻変動を解き明かす。先入観にとらわれないと、日本は取り残されてしまうだろう。



日本記者クラブ賞・同特別賞の候補をご推薦ください

2024年度日本記者クラブ賞・同特別賞の候補者を募集します。両賞の候補推薦を募集する案内を今月、プレスの基本会員と個人会員全員に、メールまたは郵送でお送りしました。

両賞とも「プロが選ぶベストプロ」に与えられる賞として日本のジャーナリズムの高い水準と優れた業績を示すものであり、当クラブの公益目的事業です。未受賞であれば、以前、推薦された候補者を再度、応募されても構いません。

来月1月31日（水）に推薦募集を締め切り（必着）、推薦委員会と選考委員会の2段階で審査。4月の理事会で受賞者が決まり、贈賞式は5月末に行います。

▼日本記者クラブ賞

この賞は、「取材、報道、評論活動などを通じて、ジャーナリストとして顕著な業績をあげ、ジャーナリズムの信用と権威を高めた個人を顕彰するもの」（日本記者クラブ賞規約第2条）です。会員または法人会員社に属する現役ジャーナリスト個人を対象に、個別のスクープではなく、最近数年間の業績が顕著であること重視して選考します。クラブ会員

であれば推薦できます。

創設から半世紀以上の歴史を持ち、これまで59人が受賞、2023年度は、事実を丹念に積み重ねて金融政策の検証を続けてきたTBSテレビの西野智彦さんが受賞しました。

▼日本記者クラブ賞特別賞

2012年度に新設され、原則として会員以外のジャーナリズム活動を顕彰しますが、会員社の取材班・番組班などチームとしての業績も対象となります。また外国人や故人も対象となります。クラブ会員だけでなく日本新聞協会あるいは日本民間放送連盟加盟の加盟社に属する方であればごなたでも推薦できます。

2023年度は免田事件資料保存委員会とRSK山陽放送「RSK地域スペシャル・メッセージ」取材班が受賞しました。



両賞とも、日本記者クラブのウェブサイトにあり応募フォームに必要な事項を入力し、参考資料を事務局に提出してください（<https://www.jncc.or.jp/award2024/>）。

映像・音声資料はデータ共有での応募も可能です。詳細は事務局の杉本（03-3503-2727）へお問い合わせください。

■会議報告

●第447回会報委員会(10.2 大会議室)

11月号の編集について協議した。

出席 榊原委員長、志賀、水野、佐藤、萩原、勝田、本橋、倉重、二村の各委員。

●第543回企画委員会

(10.11 10階ホール&オンライン)

今後のゲスト候補について意見交換した。

出席 藤井委員長、黒沢、秋山、井田、佐藤、元村、澤田(克)、橋本、猪熊、大内、菅野、辻本、高橋、乾、佐々木、森田、川上、小林、中村、澤田(信)、早川、山口、岡山、伊藤、今井、出川、川戸、播摩、小栗、野田、江川、倉澤、迫田の各委員。

●第554回会員資格委員会(10.12 小会議室)

11月1日付入退会を審議、理事会に答申した。

出席 前木委員長、竹川、村尾、宮東、小貫、菊池、森安、徳永、古賀の各委員。

●第702回理事会(書面)

一、日本記者クラブ賞規約に基づき、2024年度日本記者クラブ賞と同特別賞を実施することを承認した。

一、会員資格委員会が審議した11月1日付入退会を承認した。

小河正義ジャーナリスト基金を終えて

日本経済新聞元編集委員で航空評論家としても知られた故小河正義氏を顕彰する「小河正義ジャーナリスト基金」の活動が終了しました。2019年の開始以来、実質4年の短い期間でしたが、フリーで取材する8人の個人と2団体に対し、助成金を支給しました。

故人の奥様からの懇志による私的な基金でしたので、当初から活動期間は限っていました。「大海の一滴」だったかもしれません。しかし、ジャーナリストとして活動する有意な人材に、幾ばくかの支援はできたのではないかと思います。ご支持いただいた方々に感謝します。2023年11月1日にはこれまでの助成者にもご参加いただき、日本記者クラブでささやかな感謝の場を持ちました。

メディア、ジャーナリズムの世界も、社会の大きなうねりを受け、変貌を遂げつつあります。しかし、権力に付度せず、事実を報道するというジャーナリズムが担う役割は、不変であるとともに、むしろ今こそ、真価が問われていると思います。年齢を問わず、組織を問わず、広くジャーナリストが活躍されることを期待しています。

(同基金担当：藤井良広)



5月末に会報委員長になった。会報委員の皆さんや事務局と力を合わせ、選りすぐりの話を届けていきたいと思う。

さて、皆さんはNHKの国会中継で涙があふれたことがあるだろうか。私は一度だけある。

国会会議録のデータベースで調べたところ、昭和62年12月10日の衆院予算委員会だった。

学生だった私は自宅で本を読んでいた。つけっぱなしのテレビは国会中継を流していた。

社会党の伊藤茂氏が竹下登首相に税制論争を挑んでいた。昭和5年に金解禁を断行した浜口雄幸首相、井上準之助蔵相を描いた城山三郎著『男子の本懐』を引いて、である。

「金解禁などで、総理が国民に訴える。そのときに、当時はテレビはありませんでしたからね、中継もない。ラジオを通じて、ピラを通じて国民に訴える。その文章を書くのに、齋戒沐浴して、そうして正座をして、真夏にモーニング姿で机に向かって浜口総理は書かれたそうであります」

感涙誘う政治家ありや

「浜口は一戸一戸の前に立って訴えかける思いで書いた。このため、暑い盛りに、モーニング姿で向かった『ピラの末尾には、毛筆による署名を入れる。凸版用のその字を書くため、モーニング姿の浜口は、白いひげの盛り上がった口もとをとがらせ、気に入りの文字ができるまで、何枚も何枚も書き続けた』」

伊藤氏が「政治家の国民に対する公約というのはいかにものだらうと思うのです」と語ったところで、涙がどつと出てきた。家族が皆出かけていてよかったと思うほどに。

城山文学の傑作といわれる小説の引用だったが、為政者としてのあるべき姿を伊藤氏の質問で教えられた気がした。

その後、新聞社に入り、政治畑の記者となった。ずっと気になつてきたのは多くの政治家の国民に対する発信の拙さである。言論の府の住人とはいえ才能の多寡はあるだろう。けれども、城山が描いた浜口首相の姿には誠があった。これこそが現代の政治家に最も求められる姿勢だと思ふ。

産経新聞社論説委員長 榊原 智

**レストラン** \*価格は全て税込みです

予約電話 和食 3503-2723 洋食 3503-2766・2731

和食 霜月会席 (11/30まで)

先付：銀杏豆腐、合鴨ハム、鮪大和煮など お椀：澄まし汁(真鯛、蕪、青身、柚子) 造り：三種盛り 焼物：太刀魚蒲焼き 煮物：大山鳥、長芋、味噌煮 揚物：アンコウ五色揚げ、茄子など 食事：秋さのこご飯 水菓子：時の物 (5,500円)  
(板長：加賀谷純)

洋食 季節のおすすめコース (11/30まで)

生ハムのサラダ仕立て、ほうれん草のクリームスープ、魚介類のポワレ マルセイユ風、アールグレイシフォンケーキとバニラアイスクリーム、コーヒーまたは紅茶、パンまたはライス (4,400円)。ランチ、ディナーともにご利用いただけます。

(シェフ：佐藤和治)

\*10階レストラン・アラスカで提供している会員限定洋食メニューは、9階和食レストランでも注文できます。

**適格請求書発行事業者登録番号のお知らせ**

インボイス制度導入に伴い、公益社団法人日本記者クラブは、適格請求書発行事業者として登録を受けています。当クラブの登録番号は「T7010005016637」です。

会合関係の請求書、領収書は適格請求書を使用します。会費は不課税です。

**訃報**

村田泰夫会員(朝日新聞出身、78歳)が4月9日に、浦田雅壽会員(日本経済新聞出身、74歳)が7月4日に、芝實会員(朝日新聞出身、90歳)が10月9日に死去されました。

村田さんには2011年5月から15年5月まで企画委員をお務めいただきました。

ご冥福をお祈りいたします。

**事務局職員、退職のお知らせ**

村田茜が10月31日付で退職しました。村田は2013年4月に入社。会報、会員事務、クラブ賞と幅広い業務を担当し、10年間、事務局を支えてくれました。

**HP情報** <https://www.jnpc.or.jp/>

**会見詳録** 会見の文字記録

●コロナ対策医療専門家有志 尾身茂・公益社団法人結核予防会理事長、岡部信彦・川崎市健康安全研究所所長、武藤香織・東京大学医科学研究所公共政策研究分野教授 (9.14)

**クラブの電話 ダイヤルイン**

- 和食レストラン(9階) ..... ☎3503-2723
- 洋食レストラン(10階) ..... ☎3503-2766
- 貸室予約、宴会打ち合わせ ..... ☎3503-2724
- 受付 ..... ☎3503-2721
- 会員事務 ..... ☎3503-2727
- 経 理 ..... ☎3503-2728
- クラブ行事への申し込み ..... ☎3503-2722
- 会見申し込みアドレス ..... kaiken@jnpc.or.jp

**会員現況**

- 法人会員：127社 ●基本会員：720人 ●個人会員：1,056人
  - 法人・個人賛助会員：53社・115人 ●特別賛助会員：94人
  - 名誉・功労会員：13人 ●学生会員：47人
- 計180社・2,045人

**法人会員 BS松竹東急が入会しました**

BS松竹東急が法人会員社として入会しました。同社は2022年3月開局。映画、歌舞伎、舞台などの伝統芸能の中継のほか、オリジナルドラマ、ドキュメンタリー、バラエティ、スポーツ中継も完全無料で放送しています。

〒104-0045

東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア 3階 電話 03-6260-4800

会員登録は下記の方々です。

- ・橋本元さん 代表取締役社長
- ・伊藤恒延さん 執行役員社長室長兼ICT局長

**新しい個人D会員**

**定立 真理** 1991年日本経済新聞入社。流通経済部、証券部を経てテレビ東京に転出。ニューヨーク特派員、株式番組プロデューサー兼マーケットキャスターなど。2018年退社。



次世代育成事業とともにフリージャーナリストとして活動しています。不安定で多様性を求められる今の社会を、クラブを通じて吸収していきたいと思えます。

**長谷川 智** 1980年朝日新聞入社。経済部、アエラ記者、東京本社経済部長、同編集局長補佐、名古屋本社編集局長、教育総合本部長、浜松支局員など。2022年退社。



郷里での一記者を経て65歳の定年退職。社会人・就活生向け文章塾を開講し、執筆・講演も開始。人生100年時代の学び直しです。

**阪堂 博之** 1982年共同通信入社。ソウル特派員、外信部担当部長、編集委員、国際局企画委員など。2018年定年退社。現在、立教大学アジア地域研究所特任研究員。



65歳からは第2の人生。コロナ禍も落ち着いたし、新たなチャレンジをしてみたい。そのための「さすが」の一つとさせていただきます。

**今後の行事予定 (11/1現在)**

22㊦	14:00～15:00 10階ホール 「変動相場制50年～円の攻伐」 榊原英資 元財務官、インド経済研究所理事長
28㊦	13:30～15:00 9階会見場 「大学どこへ」① 大野英男 東北大学総長

**会報委員会**

- 委員長＝榊原 智  
委員＝稲澤 裕子 大石 卓見 勝田 洋人  
倉重 篤郎 佐藤 庄太 志賀 英樹  
二村 萩原 豊 水野 雅夫  
本橋 春紀

(事務局：本庄五月 杉本翔一)

☎03-3503-2754 FAX 03-3503-7271

撮影：三村 幸作 (日本経済新聞社大阪本社・ビジュアル報道グループ)



オープン初日、買い物客でにぎわう大阪・関西万博公式ストア1号店  
 = 9月6日、大阪市阿倍野区のあべのハルカス近鉄本店

## なりたい自分を探して

2022年に発表された時から、ずっと気になっていた。なんだろう。この目玉がたくさんついた奇妙なモノは……。

「大阪・関西万博」の公式キャラクター「ミヤクミヤク」である。日本国際博覧会協会(万博協会)の説明によれば、「細胞と水がひとつになったことで生まれた、ふしぎな生き物」。気持ち悪いけれど、かわいい。まさに「キモカワ」という表現がぴったりだ。注目を集め、万博よりも人気があると言われる。

この9月、万博グッズを集めた公式ストア1号店が大阪市内にオープンした。万博協会は、「開幕が待ち遠しく楽しみ」になるような情報発信の場にもするという。だが、ハードルは高い。

経費膨張、海外パビリオンの建設遅れなどが表面化し、世間の目は厳しさを増す一方だ。見直しや中止を求める意見などが噴き出している。

50年前の1970年の大阪万博は大成功した。「太陽の塔」、コンパニオンのミニスカートの制服、米アポロ宇宙船が持ち帰った「月の石」……など鮮烈に記憶に残る。

当時の日本には勢いがあった。「一億総中流」と呼ばれ、「人並みの生活」に希望を持つことができた。

今はどうだろう。国や経済に勢いはなく、格差は広がる。物価高騰、成長期に造られた道路などインフラ老朽化、頻発する災害、少子化など問題山積だ。大阪・関西万博は、そんな時代を踏まえたものになっているのか。

万博協会の資料によれば、ミヤクミヤクは、なりたい自分を探して、姿を変える。ただ、「姿を変えすぎて、元の形を忘れてしまうことがある」そうだ。

さて今後、大阪・関西万博の「姿」はどう変わるのか。変わりすぎて元が何だったかを忘れてしまうのか。それとも変わらなまま突っ走っていくのか。ミヤクミヤクに聞いてみたいところだ。

(読売新聞出身 知野 恵子)